

聖書 新改訳 2017

Bible Translation News

ニュースレター

(改題「生まれ変わる聖書・新改訳」)

3

3月発行
2016年

発行 一般社団法人 新日本聖書刊行会 発行人 竿代照夫 〒160-0004 東京都新宿区四谷二丁目8番地 コーポローパ瀬尾701号

Tel.&Fax.03-3350-5523 e-mail: honyaku@seisho.or.jp http://www.seisho.or.jp/

『聖書新改訳』の全面・大改訂の意味

翻訳編集委員会委員長 津村俊夫



二〇〇三年に出版された『新改訳』第三版は、一九九〇年代からの社会的・教会的要請に応える形で、「ツアラアト」・差別語・不快語等を含む約九百節の改訂を短期間で行いましたが、それは、全面改訂というものからはほど遠いものでした。

しかし、今回の「改訂」は、二〇〇八年一月一日に、著作権が名実共に『新改訳』聖書の翻訳団体に帰属することになり、当聖書翻訳団体が、自らの意志で「大改訂」を決定し、教会のわざとして、出版社との契約関係の中で行われているものです。そして、四十余りの教派・教団・神学校・諸団体の協力と祈りと支援の中で、二〇一七年の刊行を目指して、進められています。

二つの特徴

今回の翻訳改訂の特徴は、第一に、我が国における、「初めての」本格的な邦訳聖書の「改訂」作業であるということです。かつては『大正訳』が『明治元訳』の「改訂」として翻訳されましたが、新約聖書のみで刊行しました。今回は、『新改訳』第一版からの翻訳理念を踏襲しつつ、初めての「全面改訂」が行われています。現時点では、旧新約

聖書約三万節の九〇%の部分に、用字用語を含む、何らかの改訂が施されています。

向こう三十年を視野に入れながら、思い切って改訳したところも多々ありますが、『新改訳』の従来の訳語や言いまわしを尊重しているため、「大改訂」であるにもかかわらず、『新改訳』の特徴と雰囲気を持っています。これまで『新改訳』を用いてきた読者にも、さほど違和感を感じることなく、読んでいただけるのではないかと思います。(サンプル版をご覧ください)

第二の特徴は、同じ福音主義の立場に立つ、旧約学者と新約学者と日本語の専門家の連携が日常的に行われ、旧約聖書から新約聖書への連続性を、従来以上に注意して訳出することができていることです。第一版の時は、新約聖書が先に刊行されたこともあり、聖書全体を視野に入れた編集作業が徹底されていなかったところがあります。今回は、「改訂」であるゆえに、当初から、日本語表現の検討、旧約と新約の関係、特に「新約聖書における旧約聖書の引用」の問題等が入念に検討されています。原典に忠実であり、しかも、より簡潔な日本語訳を心掛けたことで、『新改訳』を使ってこなかった方々も、このたびの改訂によって新鮮な魅力を感じられることと思います。

ヨナ書 1. 13-2. 8

13 それでも、人々は船を陸に戻そうと漕いだが、できなかった。海がますます彼らに対して荒れてきたからである。

14 そこで彼らは主に向かって叫んだ。「ああ、主よ、どうか、この男のいのちのことで、私たちが滅びないようにしてください。無実の血の報いを、私たちの上に下さないでください。主よ、あなたは望むままになさったのですから。」

15 こうして、彼らはヨナを抱え上げて、海に投げ込んだ。すると、激しい怒りがやんで、海は凪になった。

16 人々は非常に主を恐れ、主にいけにえを献げて誓願を立てた。

17 主は大きな魚を備えて、ヨナを飲み込ませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

2

1 ヨナは魚の腹の中から、彼の神、主に祈った。

2 「苦しみの中から、私は主に呼びました。

すると主は、私に答えてくださいました。

よみの腹から、私が呼び求めると、

あなたは、私の声を聞いてくださいました。

3 あなたは私を深いところに、海の中に入れてくれました。

潮の流れが私を囲み、あなたの波、あなたの大波がみな、私の上を越えて行きました。

4 私は言いました。

『私は、御目の前から追われました。

ただ、もう一度、私はあなたの聖なる宮を仰ぎ見たいのです。』

5 1) 水は私を取り巻き、喉にまで至り、

大いなる水が私を囲み、

海草は頭からみつきました。

私は山々の根元まで下り、

地のかんぬきは、

私のうしろで永遠に下ろされました。

しかし、私の神、主よ、

あなたは私のいのちを

滅びの穴から引き上げてくださいました。

私のたましいが私のうちで衰え果てたとき、

私は主を思い出しました。

私の祈りはあなたに、

あなたの聖なる宮に届きました。

むなししい偶像に心を留める者は、

自分への恵みを捨て去ります。

13 *「船を」は補足

14 ①ヨナ16、詩28 ②申28、エシ15、ヨエ19、③詩25、④詩6、⑤詩35

15 ①詩7、公9、②4、③29、マタ26、マコ39、ルカ24

16 ①ヨナ9、イザ19、②ヨナ9、③詩14、④詩13、14

17 ①ヨナ6、②マタ24、③ルカ20

1 ①マタ10、②詩1、2、③マタ55、56

2 ①詩4、②ヘ4、6、③1、④詩3、⑤詩13、⑥詩17、⑦詩8、⑧詩34、⑨詩2

3 ①出5、詩6、7、②詩7、③詩54

4 ①詩22、エレ15、②1列へ38、③歴38、詩7、2、④民38、⑤詩5

5 ①哀54、②ネフェシユ、③詩1、2、14、15、④詩6、5、⑤詩3、*直訳「善」

6 *「下ろされました」は補足、①詩10、**あるいは「滅び」、②詩3、イザ17

7 *あるいは「いのち」、①詩23、②詩11、③ヨナ2、④詩4、⑤ハバ20、⑥歴27、詩6、⑦ハバ2

8 ①列15、詩16、エレ8、②詩19、20、*別訳「自分の忠節」

《レイアウトに関する改良点》

① 探しているページを見つけやすくするために、聖書箇所をページ上部の外側に、ページ番号をページ下部の外側に配置しました。また、ページ番号の前に〈旧〉／〈新〉をつけました。② 文章を読みやすくするために、文字の形が分かりやすいフォントを採用し、行間を少し広くしました。③ 欄外に記載されている引照箇所を見やすくするために、章番号を漢数字、節番号をアラビア数字にしました。

現在進められている新改訳聖書の改訂において、日本語に関わる事項について、どのような方針が採られているのか、述べたいと思う。

(1) 文体について

今回の改訂における文体に関する考え方は、二本の柱からなる。

まずは、デスマス体を重視する考え方である。新改訳第三版の文体は、第一版の新約聖書の国語顧問だった三尾砂氏の判断を踏まえて、イエスの発話やパウロの手紙の基本的な文体をデスマス体にした。これは今回の改訂でも保持されている。ただし、従来の訳で過度に丁寧になっている箇所については改める作業を行っている。

もう一つは、ジャンルにあった文体を採用するという方針である。従来の新改訳では、詩文と散文が文体的に区別されていなかった。散文でも、法律、歴史などの内容に応じての文体選択が行われていなかった。

今回の改訂では、詩篇の文章を詩文的な文体にしたり、散文でも内容によって若干の違いを設けて、ジャンルに合わせた改訂を行っている。

(2) 漢字について

従来の新改訳は、第一版を製作した当時の当用漢字の方針に従った部分があり、また漢字を限定的に採用した口語訳の判断を受け継いだために、ひらがなが多い文章になっている。今回の改訂では、常用漢字を広く採用したほか、漢字でないという意味が取りにくい場合や、ひらがなだと見苦しい場合にも漢字を用いている。新たに採用した漢字は多数あるが、数例を挙げると「献げる」「支える」「幸せ」「闇」「大勢」、さらに「飢饉」などである。その一方で、「ことば」「いのち」「みこころ」「さばき」「あかし」など、聖書で使われる意味が一般の意味と異なる場合や、新改訳の雰囲気を作り出しているような語の場合は、ひらがなを用いている。

(3) 敬語

従来の訳においては、二重に敬語が使われているケースがあり、そのような場合は改められている。また、人間同士の上下関係による敬語を限定的に用いる傾向があったが、それについても日本語で不自然な場合は改訂を行っている。

(4) 語彙・表現

語彙については、新しい訳語の採用や統一などが行われているが、日本語の観点からは、日本語の変化に対応して訳語を変える作業も行っている。「苦しむ」の意味の「なやむ」や「満足する」の意味の「飽きる」などがそうである。このような例はかなりの数に上る。また、ヘブル語、ギリシャ語のイデオム的な表現に関しては、日本語で意味が推測できると思われる場合には、そのまま訳す方針が採られている。

(5) 文脈の流れ

今回の改訂において重要な点の一つは、文脈の流れを重視したことである。従来の新改訳では、それぞれの節は正しい訳になっていたが、節と節の間の関係が分かりにくいケースがあった。一般に、節ごとに文法的な修飾関係のみに基づいて訳出すると、節間のつながりが分からなくなる場合が多い。今回の改訂では、複数節にまたがる情報の流れに注目し、原文における情報の提示順序を意識しながら、訳文の検討を行っている。

最後に、「日本語としての自然さ」に関する、基本的な考え方について触れておく。新改訳が目指しているトランスパレント訳は、日本語と文章の読みやすさを犠牲にすると考えられがちである。確かにそのような側面もないわけではない。しかし、トランスパレントであるがゆえに、原文の意味が日本語文にも鮮明に浮き上がるようにすることが可能であると考えている。原文に忠実であり、かつ日本語として自然な文章が可能である、という立場に立って、日本語の面からの検討が進められている。

新改訳聖書の全面改訂による新しい翻訳聖書の刊行事業

『聖書 新改訳 2017』の サンプル版を頒布します

『聖書 新改訳 2017』の、旧約聖書から創世記、レビ記、詩篇、ヨナ書の一部、新約聖書からマタイの福音書、ヨハネの福音書、ローマ人への手紙の一部を、出版予定の組版の体裁でレイアウトした冊子「サンプル版1」をご希望の方に頒布します。頒価は1部100円です。

【お申し込みは】

ご希望の方は、郵便局の「払込取扱票」に下記の項目を明記の上、代金をお払い込みください。払込手数料は申込者のご負担にてお願いします。

記入項目

- ご依頼人欄に、郵便番号、ご住所、お名前（お届け先宛名）、電話番号
- 通信欄に「サンプル版1」○部（お申し込み部数）、1部あたり頒価100円に部数を掛けた金額
- 金額欄にその金額
- （口座記号）00130 - 4（口座番号）374175
- 加入者名欄に「新改訳聖書センター」

入金の確認後、サンプル版を発送いたします。

お問い合わせは

TEL: 03-5341-6940 Email: bible@wlpn.or.jp
新改訳聖書センターまで

*サンプル版の発行・頒布・発送取扱は、いのちのことは社新改訳聖書センターが担当します。

【補足説明】前号の巻頭言について、読者の方々にご理解をいただきたいと、付加します。

・「大改訂」という表現は、なるべく「全面改訂」で統一していきたい。

・「聖書——新改訳2017」との新しい聖書名は、次回、これが改訂されるとき、その時の聖書名をしばるものではない。

聖書翻訳の6つの理念

あらたな翻訳聖書は、下記の6つの理念に基づいて翻訳・出版されます

1 聖書信仰

聖書を誤りなき神のことばと告白する、聖書信仰の立場に立つ。

2 委員会訳

特定の神学的立場を反映する訳出を避け、言語的な妥当性を尊重する委員会訳である。

3 原典に忠実

ヘブル語及びギリシャ語本文への安易な修正を避け、原典に忠実な翻訳をする。

4 文学類型

行き過ぎた意訳や敷衍訳ではなく、それぞれの文学類型（歴史、法律、預言、詩歌、ことわざ、書簡等）に相応しいものとする。

5 時代に適応

その時代の日本語に相応しい訳出を目指す。

6 今後も改訂

聖書研究の進展や日本語の変化に伴う必要な改訂を行う。

献金のお願い

御名を崇めます。

皆さまのお祈りと献金のご協力で改めて感謝申し上げます。

当刊行会は創立から8年目を迎えました。2017年9月末に「新しい翻訳聖書」の刊行を目指して急ピッチで作業を進めております。本格的な翻訳改訂作業を開始して以来5年、その間の経費は9300万円（累積11100万円、2015年10月時点）となりました。財政基盤の乏しい中でしたが、収入全体の50%を新改訳聖書の印税収入、40%を諸教会・団体・及び個人からの献金、そして10%を翻訳ファンドによって資金を調達することが出来ました。皆さまのご協力があったからだと感謝しております。

1年半後の2017年9月末の刊行までの必要経費をおおよそ5000万円と見積もっております。印税収入は「新改訳聖書」を購入いただいた皆様からの「形」をかえた献金と受け止めて、翻訳改訂のために全額使わせて頂いております。しかしながら、収入の根幹を占める印税収入も「新しい翻訳聖書」の刊行が近づくにつれて大きく減少することは避けられません。その事態に対処すべく、皆さまに「翻訳ファンド」をお願いしたのですが、事業継続（ランニング）資金として一定額を留保する必要がありますので、全額を使い切ることは出来ません。そのために、必要経費5000万円が満たされるように、お祈りとともに献金のご協力をお願い申し上げます。

皆さまの上に主の祝福をお祈り申し上げます。

在主

理事長 竿代 照夫

財務担当理事 倉嶋 文雄

【郵便振替】00190-5-678487
一般社団法人 新日本聖書刊行会